

清流 ニ ュ ー ズ

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164
http://seiryuji.jp.org/

平成二十六年 度 総 祈 願
佛立開導日扇聖人二生誕二百年慶讃
佛立開花運動第二年度御奉公成就
本年度自主教化誓願達成之御願
日序上人御十七回忌報恩御奉公成就
役中後継者養成 法灯相統促進

十月の御総講日

一日 十時	御修行日
七日 十時	バスデー 総講 日序上人報恩祈念
十三日 十時	高祖御命日
十七日 十時	開導御命日
廿五日 十時	門祖御命日
十一日 十時	於 清流寺 高祖御速夜
十六日 十時	開導御速夜
廿四日 十時	門祖御速夜
三十日 十時	於 羽村別院 歡尊御命日

会議

一日	御総講後 役中会議
十八日	午後二時 参事会
廿五日	御総講後 教区長会議

11月3日(祝)

10時 30分

乗泉寺巡教
高祖日蓮大菩薩御会式
大本寺 川口日智上人御親修
晴天祈願 十月廿七日〜十一月二日

来る十一月三日(祝)午前十時三十分より本年度の高祖会が奉修されます。

本年は、乗泉寺巡教として高祖会を奉修させていただきますことになり、大本寺御高職である川口日智上人をお迎えさせていただきます。

川口上人は、現在、乗泉寺、信泉寺の御住職を兼務され宗門に於ても要職を拝命され活躍中です。

この度は、乗泉寺布教区長の宮崎日良導師と随行を兼ねて近藤教要講師のお二方と、

それぞれの受け持ちのご信者さんが、お参詣下さることに なり、総勢五十名の団参をいただきます。

今回は、晴天祈願が二ヶ月にまたがりまので、今月の廿七日から十一月二日迄の七日間です。

本年最後の御会式ですから有終の美がかざれるよう、しつかり将引のご奉公をさせていただきますましよう。

なお、晴天祈願参詣は従来どおりで、
第一座 一六時〜七時半
第二座 一九時半〜十時半

晴天祈願参詣にも気張りましよう。

御祖師、日蓮聖人の略年譜

二二二三年	千葉県にご生誕
二二二三年	清澄寺(天台宗)に入寺
二二二八年	十六歳 清澄寺で得度 是聖房蓮長と名乗る
二二四二年	二十一歳 比叡山に遊学
二二五三年	(建長五年)四月廿八日 遊学を終え郷里の清澄寺にて立教開宗を宣せられる
二二六〇年	鎌倉幕府に立正安国論を提上
二二六一年	四十歳 伊豆・組岩の二法難

二二六四年	四十三歳 十一月十一日 小松原の二法難
二二七一年	五十歳 九月十二日 龍口二法難 佐渡二配流
二二七四年	五十三歳 見延へご入山
二二八二年	六十一歳 池上宗仲邸(本門寺)にてご入滅

毎月七日

日序上人御十七回忌 報恩ご奉公成就 一万遍口唱会

三月から始まっている一万遍口唱会ですが、最近はやや意識が薄れている感がありますが、報恩ご奉公成就の為に、なんとしても口唱経力をいただかねばなりません。

午前六時から午前中、教化必成をめざして一人でも多く参詣、一遍でも多く御題目をお唱えしましょう。

廿七年度 四大会 日程

廿七年度の四大会の日程が決まりました。
門祖会 二月廿二日(日)
(門祖日隆聖人)
歡尊会 五月十日(日)
(第八世日歡上人)
開導会 七月廿六日(日)
(佛立開導日扇聖人)
高祖会 十月十八日(日)
(高祖日蓮大菩薩)

十月朝参詣強調週間

二日〜六日
第二連合担当

十月は第二連合が担当で、日野教区から京王教区までです。日序上人報恩ご奉公成就の為に道場へ参詣し、祈願成就の熱帯を捧げましよう。

十月二日(木)	日野教区
三日(金)	立川教区
四日(土)	大和教区
五日(日)	国立教区
六日(月)	京王教区

日序上人御十八回忌報恩(奉公御有志奉納者氏名(その六十)(教区順。敬称略。順不同) 二十六年九月十三日現在 合計八二二名、一、五七八口



本月の御妙判

積功累徳

一滴あつまりて大海となる。微塵つもりて須弥山となる。日蓮が法華経を信じ始めしは、日本国には一滴一微塵の如し。法華経を二人三千人、百千万億人唱へ伝ふるほどならば、妙覚の須弥山ともなり、大涅槃の大海ともなるべし

(撰時抄縮1189)

何事でも、時と所がよく考慮されねばなりません。其の時を得ず、其所に叶わぬ事は決して永く行われませんが、若し時を得、所に叶った事は、其始めに於いて唯だ微小な勢力しか持たないものでも、あとになれば必ず大をなすに至るものです。それは、あたたかも、一滴の水が集まって大海

となり、チリがつもつて大きな山が出来るようなものです。法華経は末法の世に必ず弘まらべきものであり、日本国は特に法華経有縁の国であるから、日蓮聖人の一人からはじまったお題目の口唱は、一粒の雫の如きものではあるけれど、その一粒一粒があつまれば、遂には大海の如くに日本国にひろく弘まるようになる筈であるというのであります。

お経文には「積功累徳求菩薩道」と説かれてあります。これは「功ヲツミ、徳ヲ累ネル」ということですが、どんなさ、やかなものでも、ひきつゞき同じようにつゞけて行つてゆくと、いつの間にか、大きなものが出来上がってゆくという法華経の哲学とも云うべき基本的な教えというところが云えるのであります。

「信心ハツマクコト肝心ナリ」と御指南下されてあり、更に「つとめよいかなることもあめのしたゝりいしをうがてば」と御教歌下されてあり、はじめはたとへ、わずかでも、そのわずかな力でも、つゞけて

していると、いつの間にか、考えられないほどの力が生まれ、御同前の平日の信行であるところの朝夕のお看経が一回、二回はさほどではありませんが、つゞけて重ねれば、「だいまくは千遍よりは万遍と唱へ重ねて妙をしろなり」とお示しのように、「妙ヲ知ル」という事、即ち、必ず御利益が顕われると仰せられているのであります。